

第19回「母から子への手紙」コンテスト 上位入賞作品の一部を紹介します

準大賞 藤井正恵さん(大阪府)

”生き人形”君のことをそう呼ぶ人もいました。首も座らず、話すこと、寝返りさえもできなかった君は、31年もの間、母さんのそばでよくぞ生き続けてくれました。「長くは生きられない」医師の言葉に泣き、叫び、気が狂いそうでした。静かな諦めが何度も襲いかかりました。そんな時、母さんの腕の中で君は笑いました。小さな手の指先にまでしっかりと力を入れて。最高でした。そこにいてくれるだけで充分だと思いました。今、98歳のおばあちゃんが認知症になり、君と同じように何もできなくなりました。よく君を抱っこしてくれましたよね。でも大丈夫です。君とすごした31年の日々があるから全然平気です。たとえ何もできなくてもそばにいてくれるだけで、幸せな想いになれることを知っているからです。

”ただ生きること” “ただ生きぬくこと” “とても難しいけれど、とても幸せなことだと気づかせてくれた君に心から感謝です。

大賞 住田沙織さん(愛知県)

あなたに発達障がいがあることを知り、私は、人生が真っ暗になったように感じました。

あれから三年が経ち、あなたは小学生になりました。歴史と電車を愛する、個性的な優しい男の子に成長しました。目をキラキラさせながら好きな本を読んでいる姿は、本当にすてきだと思います。そして、私もあなたの話を聞いているうちに、歴史と電車を愛するおばさんに成長しました。いつもイライラしていた踏切も、引つかかるとワクワクするようになりました。電車がこんなにおもしろいとは知りませんでした。また、あなたの影響で戦国武将が好きになり、夜な夜な歴史小説を読んで目を♡にさせています。

私の人生も、あなたの人生も真っ暗ではありません。それどころか、あなたのおかげでとても彩り豊かなものになりました。辛いことも多いけれど、みんなで助け合って笑って生きていきます。あなたのキラキラした目を、私は守ってあげたいです。



八子実行委員長から賞状を受ける西浦さん(左)

Pick Up 今月のイベント

「母から子への手紙」 コンテスト表彰式

町絆づくり実行委員会は12月6日、学びいなかで第19回「母から子への手紙」コンテストの表彰式を行い、優秀賞を受賞した西浦比奈井さん(大阪府)らを選出しました。表彰式では、前後公町長、野口英世記念館長の八子弥寿男実行委員長があいさつし、八子実行委員長らが受賞者一人一人に賞状を手渡ししました。今回は、新型コロナウイルス感染症予防のため、記念講演は中止となりました。

「母から子への手紙」コンテストは、本町出身の医学者、野口英世博士の母シカが、渡米中の野口博士に宛てて書いた手紙にちなみ、母と子の絆を感じてもらおうと、平成14年から毎年開催されており、全国各地からわが子への愛情をつづった多くの手紙が寄せられています。

今年は、全国から1824名の応募があり、1次選考会では町内のお母さん32人が入賞50作品を選出。最終選考会では、芥川賞作家で福聚寺住職の玄侗宗久さん、エッセイストの大石邦子さん、元NHKアナウンサーで講師の末利光さん、1次選考委員代表(猪苗代町お母さん委員長)の楠美枝子さんの4人が厳正に審査し、大賞、準大賞、日本郵便賞などの各賞を決定しました。

優秀賞 西浦比奈井さん(大阪府)

大介覚えていますか。ばあちゃんが入歯を父さんの歯ブラシで洗ってるところを見られ大騒ぎになったことを。

お父さんの怒鳴り声だったので何事が起ったかと思いついてみると、大介が「ばあちゃん僕のを使っちゃ、いつでも使つていいから。」と言って歯ブラシを渡していました。

興奮している父さんには「同じ赤色の歯ブラシを使うから間違えるんや。」と父さんの方にも非がある事を必死で訴えていました。

その横で赤い顔をして俯いていたばあちゃん小さな身体ではあちゃんを守ろうとする大介の優しさにふれて、母さんは感動したよ。とても誇らしく嬉しく思いました。

あの後、ばあちゃんから聞いたんですが、「あんな良い子はどこを捜してもおらん。優しい子に育ててくれてありがとう。」とお礼を言われました。

今までお礼を言わずにきましたでしたが、改めてお礼を言わせて下さい。ありがとう。

日本郵便賞 横田欣彤さん(群馬県)

ある日、小学校で初めていじめに遭ったと君は言いました。理由なくマスクの紐が壊され、お腹をぶたれ、腕にも小さな青あざがありました。ママは突然の出来事を悲しく思い、どうしたらいいのか戸惑いました。でも、まず怖かったと語る君の説明をよく聞いて、親としていじめっ子たちへの対応の仕方を教えましたね。その後、毎日学校で起きる出来事をいろいろ報告してくれ、一週間経たないうちにみんな良い友だちになったよ、と教えてくれた嬉しそうな君の姿は忘れられません。

ママは台湾人ですが自分で日本語を勉強して、君に中国語を教えています。国際結婚で、何も知らない異国の生活に飛び込んできたのです。毎日が一生懸命の連続でした。だから、君も日常生活や学校で、くじけそうになっても勇気をもって一生懸命に頑張ってほしいのです。そして、将来はこの社会において、日本と台湾の良いところを繋ぐ存在になってほしいと願っています。

まちの応援マガジン いなわしろ 広報 猪苗代 Jan.2021 1 No.723



【撮影日】12月5日
【場所】ひまわりこども園

今月の表紙

ひまわりこども園保育発表会の様子を写真に収めました。白虎隊の剣舞を堂々と披露するひまわり1組の古川彩乃ちゃんです。

Contents — 【目次】

- 02 年頭のごあいさつ
- 04 Pick Up
- 06 【特集】つながる ガーナ共和国×猪苗代町
- 10 まちのわだい
- 12 いなわしろタウンページ
- 16 暮らしの情報広場
- 18 みんなの美術館／食生活改善推進員コーナー